

# 景 気 動 向 調 査

( 第 126 回 )

2 0 0 2 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2002 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株式会社 北日本銀行

経 営 企 画 部

## 目 次

調査要領	.....	1
概 況	.....	2
1. 県内景況感について	.....	4
2. 業況について		
(1) 売上高または出荷高	.....	5
(2) 生産高または仕入高	.....	6
(3) 在 庫	.....	7
(4) 収 益	.....	8
(5) 販売価格・仕入価格	.....	9
3. 設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	.....	10
(2) 設備投資の目的	.....	11
4. 資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	.....	12
(2) 現金・預金	.....	13
(3) 金融機関借入	.....	13
(4) 販売代金回収期間	.....	14
(5) 仕入代金決済期間	.....	14
5. 経営上の問題点について	.....	15

## 調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

### 記

- 1．実施時期           2002年6月下旬～2002年7月上旬
- 2．調査対象期間      2002年4月～6月期実績  
                          2002年7月～9月期予測
- 3．調査の方法        郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先            岩手県内企業 390社
- 5．回答数            235通（回答率60.2%）  
                          <内訳> 製造業 75社 建設業 60社 卸・小売業 100社
- 6．調査の主要項目   (1) 業況について  
                          (2) 設備投資の動向について  
                          (3) 資金繰りの状況について  
                          (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

### 【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

# 概 況

## ～ 県内景況感 2 期連続上向きに推移 ～

2002 年 4～6 月期の岩手県内企業の景況感 D I は、全体で 76.7 と前期 86.3 より 9.6 ポイント改善し 2 期連続の上向きとなった。

これは、変わらないとした企業が 7.6 ポイント増えたことによるもので県内景況は依然として底を這っている状態である。しかし一方で、良くなったとした企業が 1.8 ポイントと前回より僅かにではあるが増えてきているのは明るい兆しである。

項目別に前回調査時（2002 年 1～3 月期実績）と比較してみると、前回は全業種ベースでの「景況感」D I 以外は全て下向きとなっていたが、今回調査においては他の項目でも上向きとなっているものがでてきている。ただし、その内容を見ると、前回同様、変わっていないと回答している企業が増えたことによるところが大きく、良くなったと回答している企業が大幅に増加しているからではない。したがって、景況が回復に向かっていると断言する状況には依然至っていない。

一方、国内経済全般をみると、国内需要は依然弱いものの、輸出や生産面の明るさが増し、企業の収益や業況感も改善するなど、全体としてほぼ下げ止まっている。物価面をみると、消費者物価は引き続き緩やかな下落傾向にあるが、国内卸売物価は、ほぼ横這いの動きとなっている。

また、最近の岩手県内経済においては、地元大手企業が民事再生法の申請を行うなど大きな動きがあったことから、今後各方面への影響が懸念されるところである。

### < 参考 >

岩手県内企業「景況感 D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感 D I
1	第 124 回(前々回)	01 年 10～12 月	91.2
2	第 109 回	98 年 1～3 月	90.6
3	第 111 回	98 年 7～9 月	90.0
4	第 108 回	97 年 10～12 月	89.7
5	第 110 回	98 年 4～6 月	89.3

(1971 (昭和 46) 年以降)

## 1. 県内景況感について

全体のDIは、前回調査時に11期ぶりに上向きに転じていたが、今回調査でも76.7と前期比9.6ポイント回復し2期連続で上向きとなった。

また、各業種別のDIをみると、製造業で6.4ポイント、建設業で11.1ポイント、卸・小売業で10.6ポイントと全業種で改善されてきている。

## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

製造業、卸・小売業がほぼ横這い、建設業がやや上向いたことにより、全体でも上向いた。

### (2) 生産高または仕入高

卸・小売業の仕入高は2期連続で上向いたものの、製造業の生産高は若干下向いた。

### (3) 在庫

製品・商品の在庫は、製造業では依然下向いているものの、卸・小売業では「適正」とする企業が増加してきており、DIも上向いている。

### (4) 収益

各業種とも前期比上向きとなっており、特に製造業、建設業については大きく上向いている。

### (5) 販売価格・仕入価格

販売価格は4期振りに上向きに転じ、仕入価格は2期連続で上向きとなった。

## 3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は17.0%と、20%台には届かなかったが、全業種とも上向いている。

なお、設備投資の目的をみると、「生産販売能力の増加」「生産・販売能力の維持更新」の割合が引続き高くなっている。

## 4. 資金繰り状況について

各業種とも上向いている。特に製造業と建設業は大きく上向いた。しかし、来期の見通しについては、反動からか製造業と建設業で下向きの予想となっている。

## 5. 経営上の問題点について

上位の4項目、「売上・受注不振」「収益不振」「販売価格安」「過当競争」は変わっていない。

# 1 . 県内景況感について

～ 全業種で大きく上向き、全体でも2期連続上向く ～

[4～6月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が1.8%（前期0.8%）、「悪い」が78.5%（同 87.1%）で、DIは76.7（同 86.3）と、9.6ポイント上げ、前期に続き2期連続で上向いた。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が71.8（同 78.2）、建設業が79.0（同 90.1）、卸・小売業が79.0（同 89.6）と、各業種とも大きく上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が4.0%、「悪くなる」が68.1%であることから、DIは64.1となり、4～6月期実績と比較すると指標は12.6ポイントと大きく上向く。

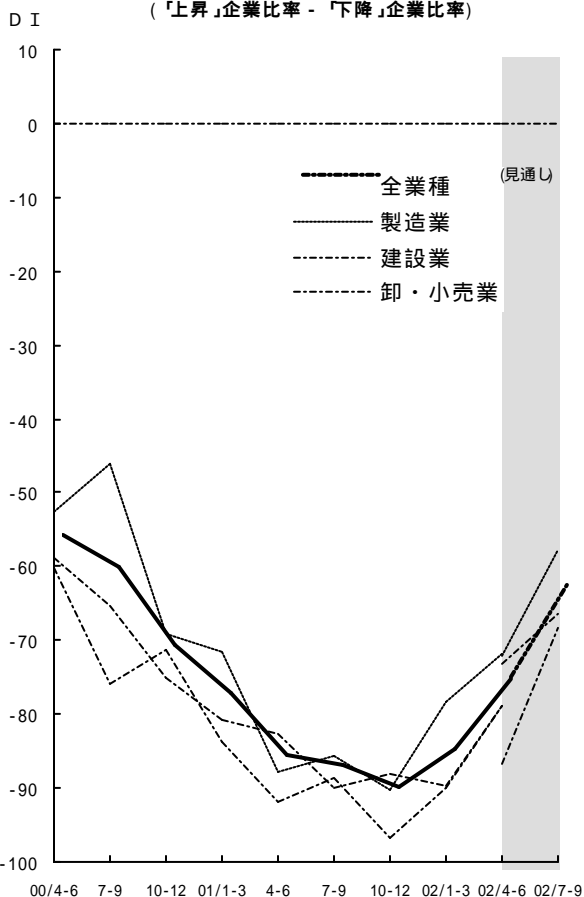
業種別にみると、製造業が57.8、建設業が68.3、卸・小売業が66.4となっており、4～6月期実績と比較して、各業種とも上向く。

県内景況感 (前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	4～6月 (実績)	0.0	1.8	19.7	39.0	39.5	-76.7
	7～9月 (見通し)	0.9	3.1	27.9	37.6	30.5	-64.1
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	1.4	25.4	36.6	36.6	-71.8
	7～9月 (見通し)	1.4	1.4	36.6	33.8	26.8	-57.8
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	3.5	14.0	38.6	43.9	-79.0
	7～9月 (見通し)	1.8	1.8	24.5	33.3	38.6	-68.3
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	0.0	1.0	19.0	41.0	39.0	-79.0
	7～9月 (見通し)	0.0	5.1	23.4	42.9	28.6	-66.4

県内景況感 (前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



## 2. 業況について

### (1) 売上高または出荷高

～ 製造業、卸・小売業が横ばい、建設業で上向き ～

[4～6月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が13.5%(前期 12.8%)、「減少」が66.5%(同 67.0%)となり、DIは53.0(同 54.2)と、やや上向いた。

業種別にDIをみると、製造業 45.8(前期 45.3)、建設業 58.7(同 62.4)、卸・小売業 55.0(同 55.7)となった。製造業および卸・小売業が横這いで推移し、建設業で若干上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が16.6%、「減少」が53.1%であることから、DIは36.5で、4～6月期実績と比較して、大きく上向き予想となっている。

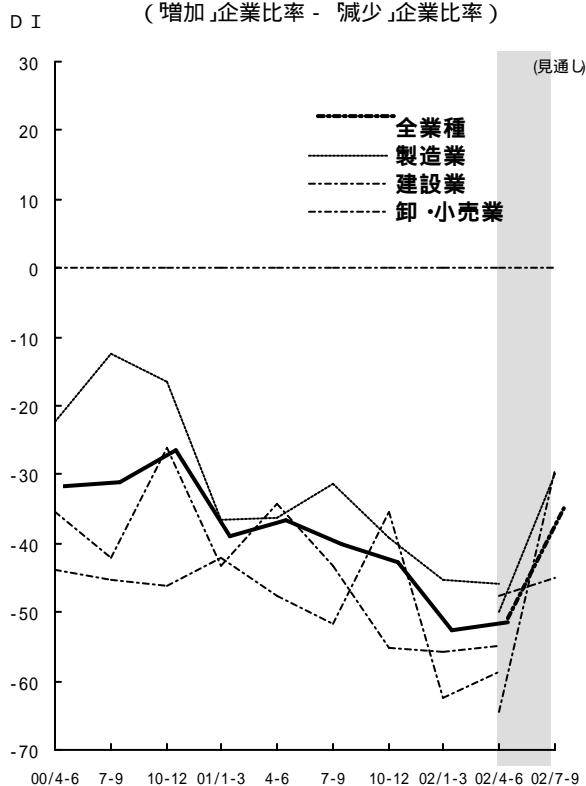
業種別にDIをみると、製造業で30.0、建設業で29.4、卸・小売業で45.0となっており、4～6月期実績と比較して、各業種とも大きく上向き予想となっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	4～6月(実績)	0.9	12.6	20.0	42.2	24.3	-53.0	
	7～9月(見通し)	0.4	16.2	30.3	39.5	13.6	-36.5	
(製造業)	4～6月(実績)	2.8	13.9	20.8	36.1	26.4	-45.8	
	7～9月(見通し)	0.0	18.6	32.8	35.7	12.9	-30.0	
(建設業)	4～6月(実績)	0.0	10.3	20.7	36.2	32.8	-58.7	
	7～9月(見通し)	1.7	20.7	25.8	32.8	19.0	-29.4	
(卸・小売業)	4～6月(実績)	0.0	13.0	19.0	50.0	18.0	-55.0	
	7～9月(見通し)	0.0	12.0	31.0	46.0	11.0	-45.0	

売上・出荷動向(前年同期比)

(増加「企業比率」-「減少」企業比率)



(2) 生産高または仕入高

～ 卸・小売業2期連続で上向く ～

[4～6月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が15.8%（前期14.7%）、「減少」が61.5%（同58.7%）で、DIは45.7（同44.0）と、若干下向いた。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は13.2%（前期6.3%）、「減少」が65.3%（同62.6%）で、DIは52.1（同56.3）と、2期連続で上向きとなった。

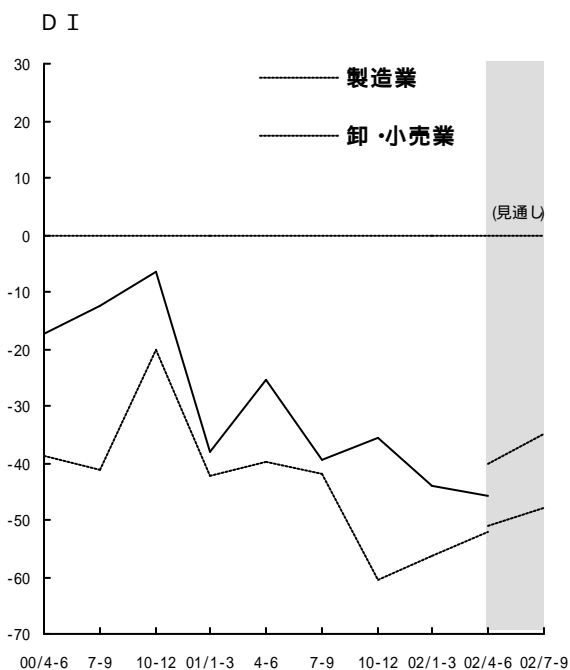
[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が15.9%、「減少」が50.7%であることから、DIは34.8で、4～6月期実績と比較して、大きく上向きとなる。

卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が8.2%、「減少」が56.1%であることから、DIは47.9となり、4～6月期実績と比較しやや上向きとなる。

生産高または仕入高（前年同期比）

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
（製造業）	4～6月（実績）	2.9	12.9	22.7	38.6	22.9	-45.7
	7～9月（見通し）	1.4	14.5	33.4	37.7	13.0	-34.8
（卸・小売業）	4～6月（実績）	1.0	12.2	21.5	49.0	16.3	-52.1
	7～9月（見通し）	0.0	8.2	35.7	46.9	9.2	-47.9

生産・仕入動向（前年同期比）  
（「増加」企業比率 - 「減少」企業比率）





(3) 在庫

～ 卸・小売業の製品在庫、大きく上向く ～

〔4～6月期の実績〕 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は6.0%（前期12.5%）、「減少」が50.7%（同45.8%）であることから、DIは 44.7（同 33.3）となった。また、原材料在庫水準については「過大」が14.1%（同10.7%）、「適正」が76.5%（同77.0%）、「不足」が9.4%（同12.3%）である。

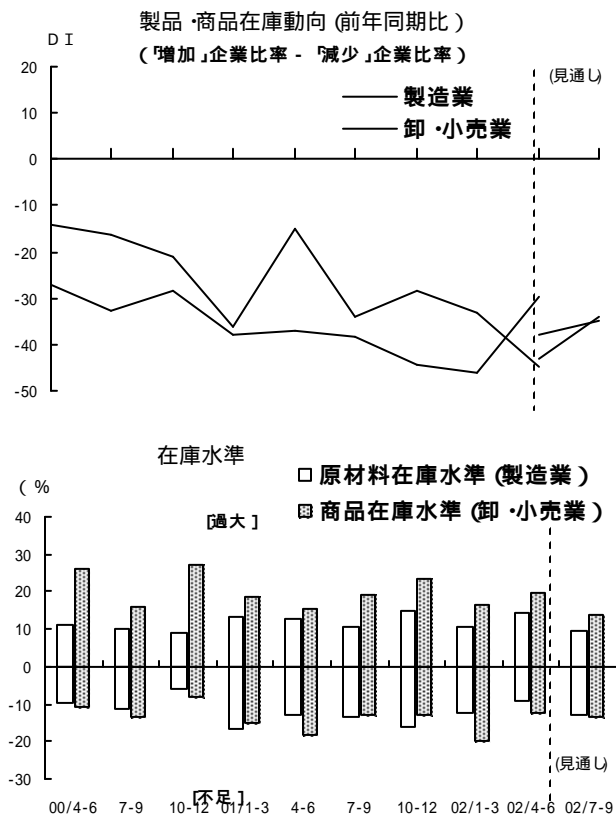
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が9.3%（前期5.4%）、「減少」39.2%（同51.6%）であることから、DIは 29.9（同 46.2）と大きく上向きとなった。また、商品の在庫水準については、「過大」が19.8%（同16.3%）、「適正」が68.1%（同63.6%）、「不足」が12.1%（同20.1%）で、「適正」とする企業が若干増加した。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が9.1%、「減少」が43.9%で、DIは 34.8となっている。また同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が9.5%、「適正」が77.8%、「不足」が12.7%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が4.1%、「減少」が38.2%であることから、DIは 34.1となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が13.6%、「適正」が72.8%、「不足」が13.6%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（%）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
（製造業）	4～6月（実績）	1.5	4.5	43.3	34.3	16.4	-44.7
	7～9月（見通し）	0.0	9.1	47.0	31.8	12.1	-34.8
（卸・小売業）	4～6月（実績）	2.1	7.2	51.5	33.0	6.2	-29.9
	7～9月（見通し）	1.0	3.1	57.7	32.0	6.2	-34.1



(4) 収 益

～ 全ての業種で上向く ～

〔4～6月期の実績〕 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が14.2%（前期11.4%）、「減少」が59.3%（同66.7%）であり、D Iは45.1（同 55.3）となり、3期ぶりに上向いた。

業種別にD Iをみると、製造業 26.8（前期 41.6）、建設業 63.6（同 80.0）、卸・小売業 48.0（同 50.0）となり、各業種で上向いた。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が15.0%、「減少」とみる企業が52.3%であることから、D Iは 37.3で、4～6月期実績と比較して大幅に上向く見通し。

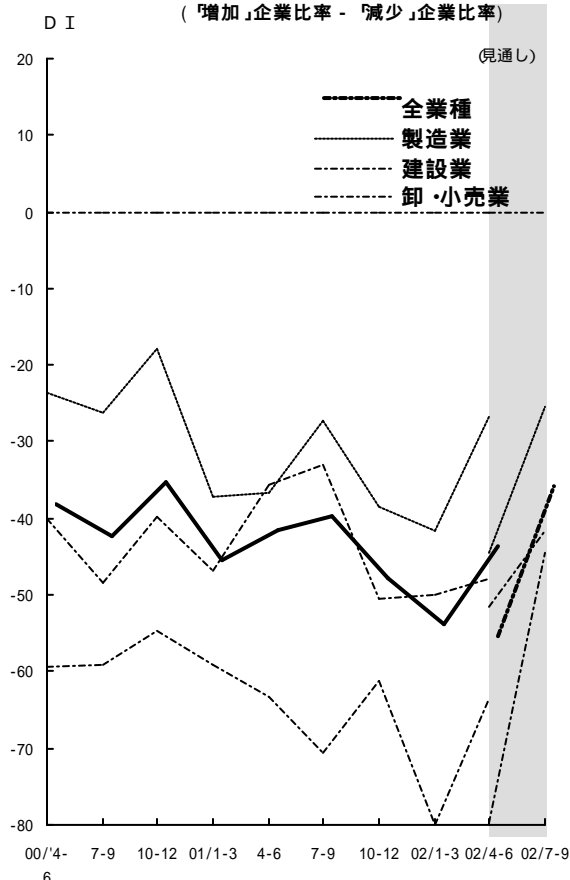
業種別にD Iをみると、製造業は 25.4、建設業 44.4、卸・小売業 41.5であり、4～6月期実績と比較して、全ての業種で上向く予想である。

収 益 (前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	0.9	13.3	26.5	31.9	27.4	-45.1
	7～9月 (見通し)	0.9	14.1	32.7	32.3	20.0	-37.3
(製造業)	4～6月 (実績)	1.4	19.7	31.0	21.1	26.8	-26.8
	7～9月 (見通し)	1.5	17.9	35.8	29.9	14.9	-25.4
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	7.3	21.8	29.1	41.8	-63.6
	7～9月 (見通し)	1.9	13.0	25.8	27.8	31.5	-44.4
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	1.0	12.0	26.0	41.0	20.0	-48.0
	7～9月 (見通し)	0.0	12.1	34.3	36.4	17.2	-41.5

収益動向 (前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格、仕入価格ともに上向く ～

[4～6月期の実績] 販売価格(前年同期比)をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が4.5%(前期3.0%)、「低下」が49.7%(同57.2%)であることから、DIは45.2(同 54.2)と、4期ぶりに上向きとなった。

仕入価格(前年同期比)をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が7.1%(前期5.2%)「低下」が28.3%(同32.7%)であることから、DIは 21.2(同 27.5)となり、2期連続で上向きとなった。

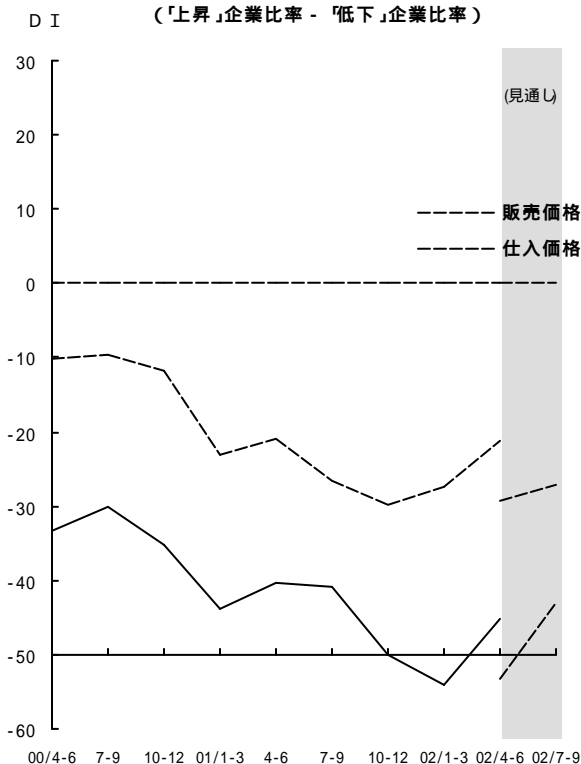
[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が2.3%、「低下」とみる企業が45.4%であることから、DIは 43.1で4～6月期実績と比較して若干上向きとなる。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が3.2%、「低下」とみる企業が30.3%であることから、DIは 27.1で、4～6月期実績と比較して若干下向きとなる。

販売価格(前年同期比)

		(%)					DI
期	上昇	やや上	不変	やや低	低下		
全業種	4～6月(実績)	0.0	4.5	45.8	40.7	9.0	-45.2
	7～9月(見通し)	0.5	1.8	52.3	35.9	9.5	-43.1

価格動向(前年同期比)  
(「上昇」企業比率 - 「低下」企業比率)



仕入価格(前年同期比)

		(%)					DI
期	上昇	やや上	不変	やや低	低下		
全業種	4～6月(実績)	1.3	5.8	64.6	24.7	3.6	-21.2
	7～9月(見通し)	0.9	2.3	66.5	25.3	5.0	-27.1

### 3.設備投資の動向について

#### (1) 設備投資の実施状況

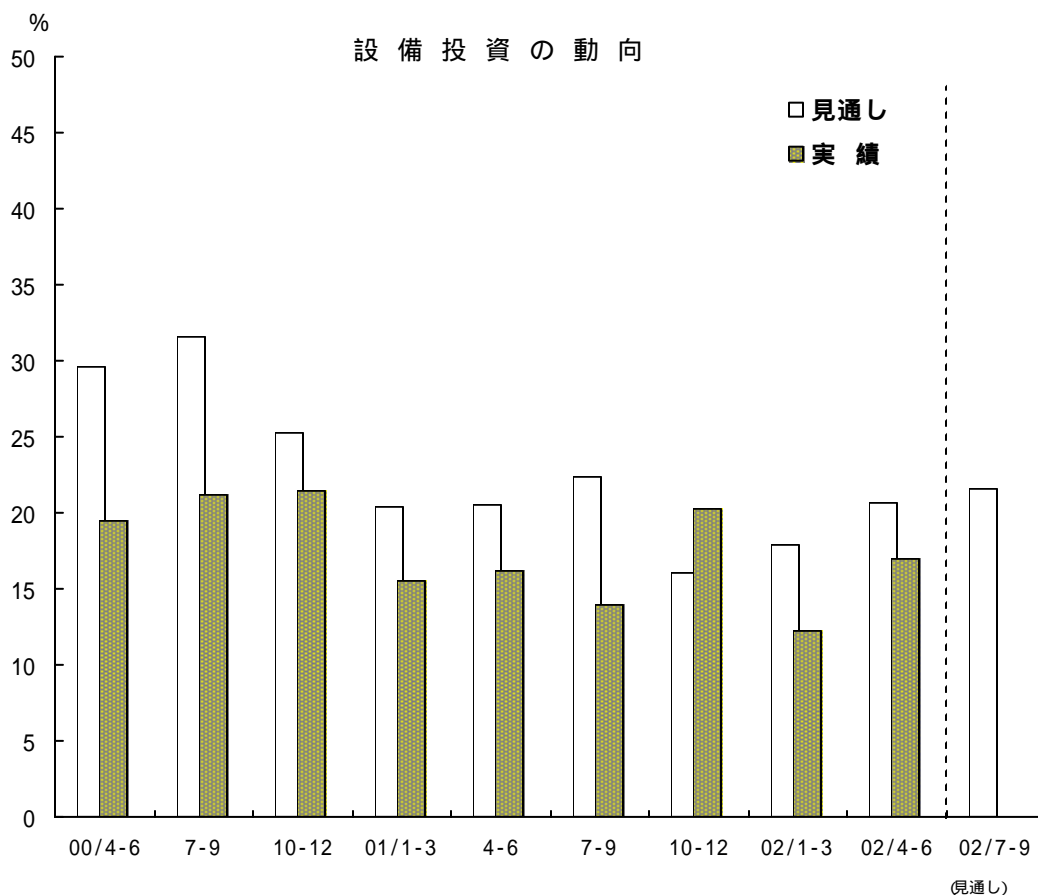
～ ふたたび上向きに転じる ～

[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は17.0%（前期12.2%）で、ふたたび上向きに転じた。

これを業種別にみると、製造業が22.0%（前期17.6%）、建設業8.8%（同6.7%）、卸・小売業18.2%（同11.6%）と、全業種で上向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で9.9%（前期11.4%）、「計画はあるが具体化していない」は11.7%（同9.2%）、「計画はない」は78.4%（同79.4%）であった。「計画あり」は合計21.6%（同20.6%）とやや上向いたものの、依然として低水準となっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で27.9%（前期26.0%）、建設業で17.6%（同16.7%）、卸・小売業で19.6%（同19.0%）と、全ての業種でやや上向いている。



## (2) 設備投資の目的

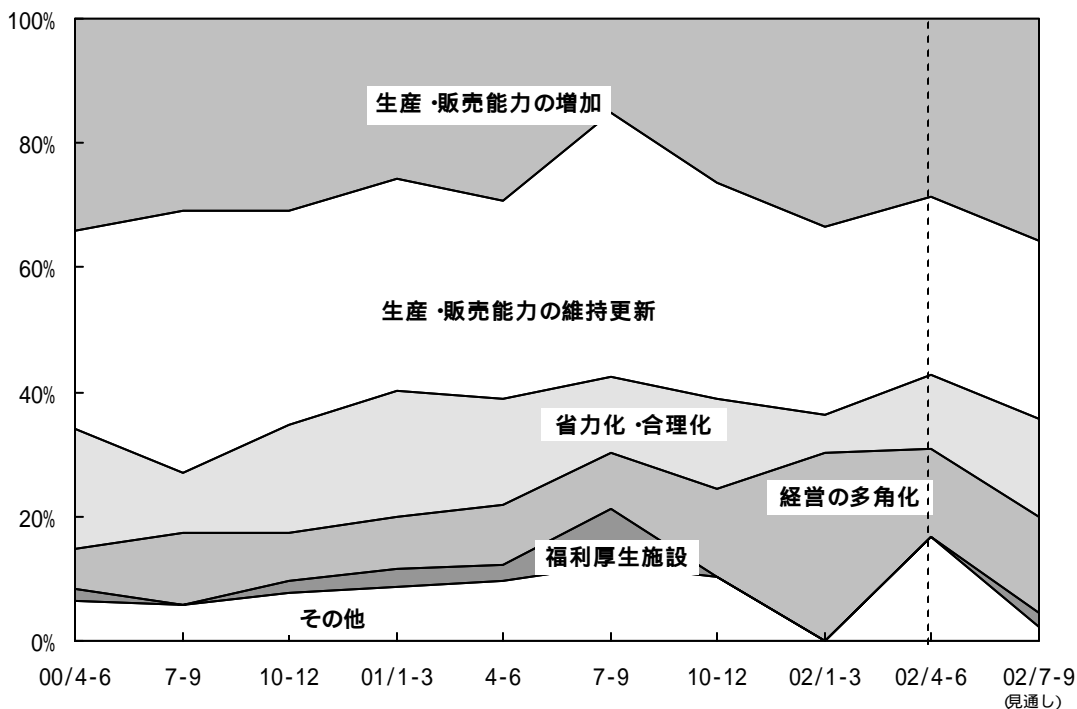
[4～6月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(17.0%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の増加」28.6%(前期33.3%)が前回に引続きトップ、同率で「生産・販売能力の維持更新」(前期30.3%)、「経営の多角化」が14.3%(前期30.3%)、「省力化・合理化」が11.9%(同、6.1%)の順となっている。

業種別にみると、製造業および建設業では「省力化・合理化」の比率がトップ、卸・小売業では「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっている。

[7～9月期の見通し] 今後3カ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(20.6%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が37.0%(前期46.5%)と最も多く、以下、「生産・販売能力の増加」が26.1%(同18.6%)、「省力化・合理化」26.1%(同16.3%)の同率順位となっている。

投資目的について業種別にみると、製造業では「生産・販売能力の増加」「省力化・合理化」が同率トップ。建設業および卸・小売業では「生産能力の維持更新」がトップとなっている。

設備投資の目的



## 4. 資金繰り状況について

### (1) 資金繰り状況

～ 製造業、建設業で、前期比大幅に上向く ～

〔4～6月期の実績〕 資金繰り状況（前期比）は、全業種では、「楽になった」とする企業が10.5%（前期8.2%）、「苦しくなった」が42.6%（同47.2%）であることから、DIは 32.1（同 39.0）と上向いた。

業種別にDIをみると、製造業が 26.8（前期 36.0）、建設業が 38.0（同 49.1）、卸・小売業が 32.3（同 35.1）であり、製造業と建設業が大きく上向いた。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が8.0%、「苦しくなる」が46.9%であることから、DIは 38.9となり、4～6月期実績（ 32.1）と比較して下向きとなる。

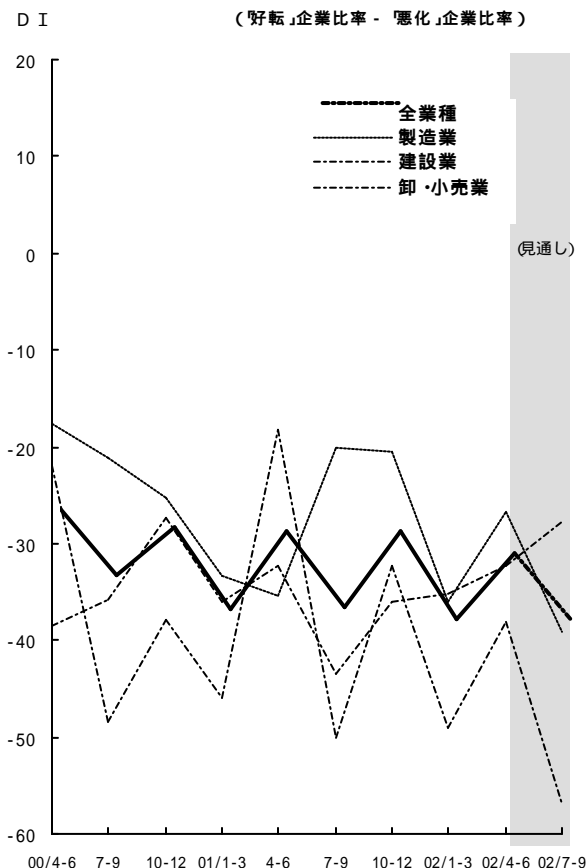
業種別にDIをみると、製造業 39.2、建設業 57.0、卸・小売業 27.8となっており、製造業と建設業とで悪化することを予想している。

資金繰り(前期比)

		（％）						DI
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦		
全業種	4～6 (実績)	1.3	9.2	46.9	30.3	12.3	-32.1	
	7～9 (見通し)	0.9	7.1	45.1	29.9	17.0	-38.9	
（製造業）	4～6 (実績)	2.8	9.9	47.8	29.6	9.9	-26.8	
	7～9 (見通し)	1.4	8.7	40.6	37.7	11.6	-39.2	
（建設業）	4～6 (実績)	1.7	8.6	41.4	29.3	19.0	-38.0	
	7～9 (見通し)	1.7	1.7	36.2	34.5	25.9	-57.0	
（卸・小売業）	4～6 (実績)	0.0	9.1	49.5	31.3	10.1	-32.3	
	7～9 (見通し)	0.0	9.3	53.6	21.6	15.5	-27.8	

資金繰り動向(前期比)

（「好転」企業比率 - 「悪化」企業比率）



## (2) 現金・預金

[4~6月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が8.4%(前期8.6%)、「減少した」が48.5%(同50.8%)であることから、DIは40.1(同42.2)と、やや上向きとなった。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が6.4%、「減少する」が44.4%であることから、DIは38.0(当期40.1)で若干上向き予想となっている。

## (3) 金融機関借入

[4~6月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が14.9%(前期23.3%)、「減少した」が37.4%(同26.4%)であることから、DIは22.5(同3.1)と大きく下向いた。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が19.1%、「減少する」が25.1%であることから、DIは6.0(当期22.5)と、当期の反動から大きく上向き予想となっている。

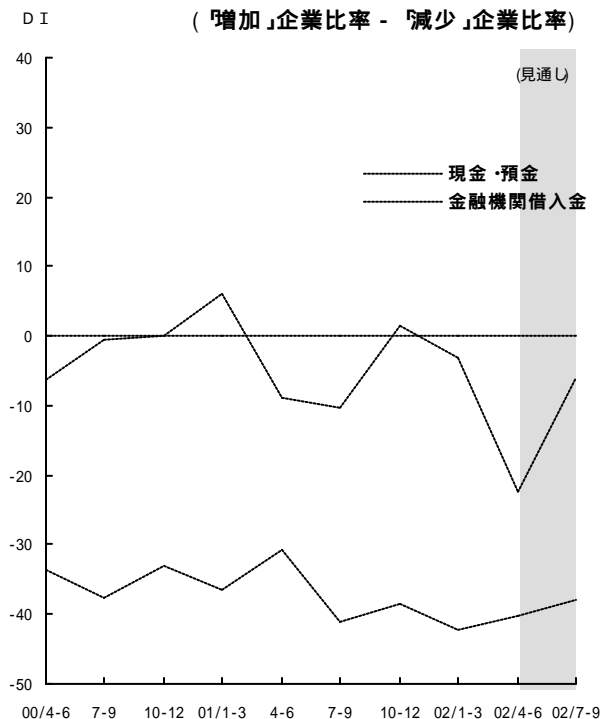
### 現金・預金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4~6 (実績)	2.2	6.2	43.1	32.6	15.9	-40.1
	7~9 (見通し)	0.5	5.9	49.2	29.0	15.4	-38.0

### 金融機関借入金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4~6 (実績)	2.6	12.3	47.7	28.6	8.8	-22.5
	7~9 (見通し)	5.9	13.2	55.8	21.0	4.1	-6.0

現金・預金動向(前期比)  
金融機関借入金(前期比)  
(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



#### (4) 販売代金回収期間

〔4～6月期の実績〕 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が4.5%（前期4.3%）、「長くなった」が20.5%（同26.2%）であることから、DIは16.0（同21.9）となった。また、75.0%（同69.5%）の企業は「変わらない」としている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が2.3%、「長くなる」が19.1%であることから、DIは16.8（当期16.0）となる。また、78.6%の企業は「変わらない」とみている。

#### (5) 仕入代金決済期間

〔4～6月期の実績〕 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が4.0%（前期4.3%）、「短くなった」が5.4%（同7.4%）であることから、DIは1.4（同3.1）となった。また、90.6%（同88.3%）の企業は「変わらない」としている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が4.5%、「短くなる」が6.8%であることから、DIは2.3（当期1.4）となる。また、86.7%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間（前期比）

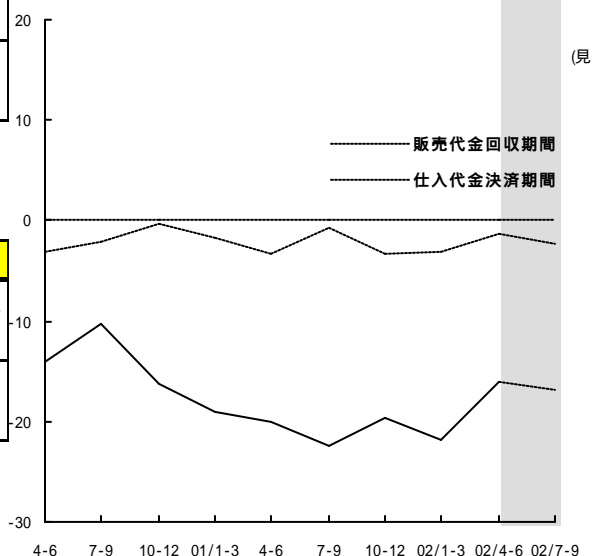
		（%）					DI
期	短く	やや短	不変	やや長	長く		
全業種	4～6 （実績）	0.9	3.6	75.0	17.4	3.1	-16.0
	7～9 （見通し）	0.5	1.8	78.6	14.1	5.0	-16.8

仕入代金決済期間（前期比）

		（%）					DI
期	長く	やや長	不変	やや短	短く		
全業種	4～6 （実績）	0.0	4.0	90.6	4.5	0.9	-1.4
	7～9 （見通し）	0.0	4.5	88.7	6.3	0.5	-2.3

販売代金回収期間動向（前期比）  
（「短くなった」企業比率 - 「長くなった」企業比率）

仕入代金決済期間動向（前期比）  
（「長くなった」企業比率 - 「短くなった」企業比率）





## 5. 経営上の問題点について

～ 「売上・受注不振」 が依然トップ ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」36.1%（前期37.3%）、「収益不振」20.1%（同17.5%）、「過当競争」16.1%（同13.9%）、「販売価格安」10.0%（同14.8%）の順となり、「過当競争」と「販売価格安」が順位を入替えた。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」34.1%（前期36.5%）、「収益不振」18.2%（同14.6%）、「過当競争」14.4%（同9.5%）。建設業では「受注不振」41.4%（同38.1%）、「過当競争」21.6%（同20.3%）、「収益不振」18.0%（同18.6%）。卸・小売業では「売上不振」34.8%（同37.2%）、「収益不振」23.0%（同19.1%）、「過当競争」13.4%（同13.1%）となっている。いずれの業種とも「売上・受注不振」がトップとなり、「収益不振」「過当競争」が次いで上位を占めている。

